

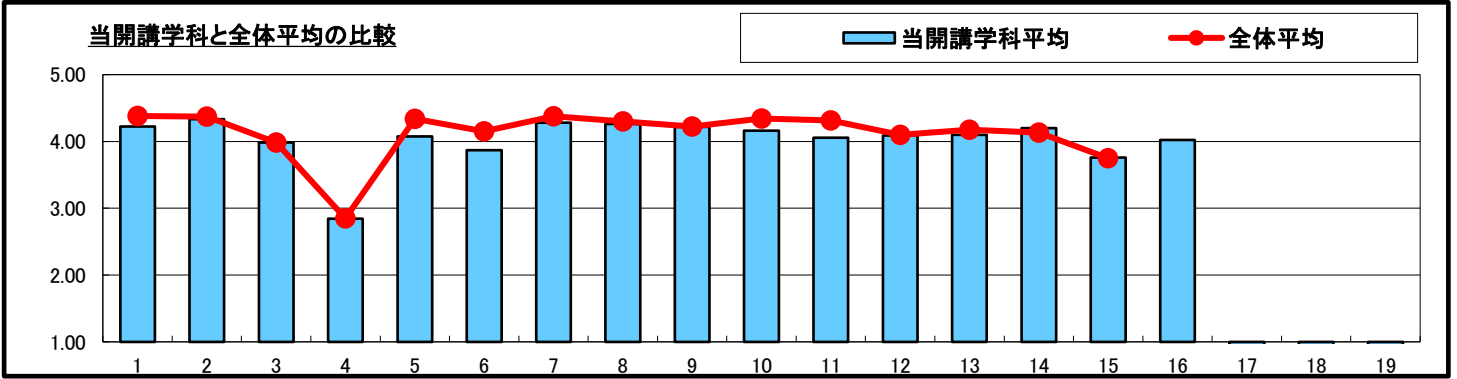
2025年度前期 開講学科別集計結果表

常葉大学

開講学科	静岡理学療法学科	履修者数	1,138
		回答者数	974

学年 マーク	回答者数／構成比（％）				
	1年	2年	3年	4年	無効回答
	138	316	478	42	0
	14.2	32.4	49.1	4.3	0.0

No.	設問文	平均	回答者数／構成比（％）					有効 回答	無効 回答	
			5	4	3	2	1			
			とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
▼全学部共通の質問項目										
1	学修環境（プロジェクタ・音響・空調・照明・静粛性）は良好であった	4.22	443 45.6	376 38.7	102 10.5	29 3.0	22 2.3	972	2	
2	クラスサイズ（受講者数）やグループサイズは適切であった	4.33	510 52.4	327 33.6	100 10.3	23 2.4	13 1.3	973	1	
3	周りの学生の熱意が感じられた（熱心に授業に参加していた）	3.99	345 35.5	384 39.5	151 15.5	68 7.0	24 2.5	972	2	
▼学部レベルの質問項目										
4	この授業に対する授業時間外学修にどの程度の時間を費やしましたか（1回の授業の前後）	2.84	2時間以上 105 10.8	1時間以上 2時間未満 123 12.6	30分以上 1時間未満 356 36.6	30分未満 291 29.9	全くして いない 98 10.1	973	1	
5	シラバスに則した内容の授業が行われていた	4.07	458 47.1	288 29.6	118 12.1	58 6.0	51 5.2	973	1	
6	この科目の難易度は適切であった	3.87	316 32.5	360 37.0	187 19.2	74 7.6	36 3.7	973	1	
7	この科目は学部・学科の学びを深める上で有益であった	4.28	502 51.6	314 32.3	107 11.0	29 3.0	21 2.2	973	1	
8	この科目は自らのキャリア形成や将来を考える上で役立った	4.26	487 50.1	323 33.2	111 11.4	32 3.3	19 2.0	972	2	
9	【対面授業の場合】 この科目は対面で受講することが適切であった 【ポータルサイト等を活用した授業（オンライン授業）の場合】 この科目はオンラインで受講することが適切であった	4.22	492 50.6	291 29.9	123 12.7	41 4.2	25 2.6	972	2	
▼教員個人レベルの質問項目										
10	教員の話し方は明瞭で聴き取りやすかった	4.16	444 45.8	330 34.1	127 13.1	45 4.6	23 2.4	969	5	
11	板書、スライド、配布資料などは適切であった	4.06	427 43.9	306 31.5	139 14.3	68 7.0	32 3.3	972	2	
12	学生に質問や意見を求める、発表の機会を設けるなど授業への参加を促していた	4.09	405 41.7	338 34.8	160 16.5	47 4.8	22 2.3	972	2	
13	学生の反応や理解を確認しながら授業を展開していた	4.10	432 44.4	324 33.3	131 13.5	51 5.2	34 3.5	972	2	
14	必要に応じて学生の受講態度への注意を適切に行っていた	4.20	439 45.3	349 36.0	135 13.9	28 2.9	18 1.9	969	5	
15	この授業のシラバスを読みましたか	3.76	十分に 読んだ 241 24.8	よく読んだ 379 39.0	どちらとも いえない 252 25.9	ほとんど 読まなかった 77 7.9	全く読んで いない 24 2.5	973	1	
▼学科設問										
16	分からないことについて、自分から調べることができた	4.02	334 34.3	413 42.4	165 16.9	39 4.0	23 2.4	974	0	
17		－	0 －	0 －	0 －	0 －	0 －	0	974	
18		－	0 －	0 －	0 －	0 －	0 －	0	974	
19		－	0 －	0 －	0 －	0 －	0 －	0	974	



2025 年度前期授業アンケート 学科別集計結果表に対する講評

学科／課程	静岡理学療法学科
講評者	静岡理学療法学科 学科長 佐藤 友紀

設問	講評
設問 1～3 「全学部共通の質問項目」について	3. 熱心に授業に参加していた、の点数が低かった。3 割弱の学生が、周囲の学生が熱心に勉強していないと感じていた程度であるため、予想外に学生は熱心に授業を受けている印象を持った。
設問 4～9 「学部レベルの質問項目」について	授業時間外学修を全くしていない学生が 10%もいたことは驚きである。このような学生が国家試験不合格となると思われる。入試の変化に伴い多様化した学生が入学していることを示すものであるが、学生を学修する方向に導くためには何が良いのか、どこを改善すべきなのか、引き続き検討が必要である。
設問 10～15 「教員個人レベルの質問項目」について	例年と同じであるが、シラバスを見ていない学生が多いと思う。何のために授業を受けているのか、授業で何を学ぶのかなど、授業に興味がないことを示している。どちらともいえない、と回答した学生が 26%もいることは、学生がアンケートに真剣に答えているのか疑いたくなる数字である。
設問 16～ 「学科設問」について（該当学科のみ）	分からないことがあったときに 80%弱の学生が自ら調べることができたという回答であった。疑問を持ち、自ら調べることができる学生は、これを継続して実行していったほしい。一方、自ら調べをすることをしなかった・できななかった学生が積極的に調べるようになるために何が必要なのか、引き続き検討していく。